



十二月 (大) 師走

しわす

畢宿

(十一月七日大雪の節より
月命戌子四緑木星の月
暗剣殺東南方)

旧 十月小
十一月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	其宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
14日	月	きのえ	ね	一白	甲子、天しや、一粒万倍日	四	友引	たつ	畢	よる	よる	12.42	12.42
13日	日	みのと	る	一白	一粒万倍日、八せん終り	三	先勝	とづ	昂	ぢう	ぢう	16.28	16.28
12日	土	みのえ	ぬ	二黒	岡山最上稲荷火焚祭	二	赤口	ひらく	胃	月とく	月とく	16.28	16.28
11日	金	かのと	とり	三碧	朔一九時二九分 旧十一月大	朔	大安	おさん	婁	神よし	神よし	23.10	23.10
10日	木	かのえ	さる	四緑	世界人権デー、納めの金毘羅、大宮氷川神社大湯祭、庚申	廿九	友引	なる	奎	大み	大み	22.37	22.37
9日	水	つちの	むじ	五黄	京都了徳寺大根焚き、漱石忌、不成就日	廿八	先勝	あやぶ	壁	神よし	神よし	15.08	15.08
8日	火	つちの	えう	六白	納めの薬師、成道会、こと納め、針供養	廿七	赤口	やぶる	室	ちい	ちい	14.31	14.31
7日	月	ひのと	み	七赤	大雪一九時五三分	廿六	大安	とる	危	十し	十し	13.56	13.56
6日	日	ひのえ	た	八白	小田原秋葉権現火防祭	廿五	佛滅	とる	虚	大み	大み	13.24	13.24
5日	土	きのと	う	九紫	納めの水天宮	廿四	先負	さだん	女	神よし	神よし	12.06	12.06
4日	金	きのえ	とら	一白	人権週間	廿三	友引	たいら	牛	月とく	月とく	11.50	11.50
3日	木	みのと	し	二黒	下弦一六時四〇分、秩父夜祭、障害者週間	廿二	先勝	みつ	斗	くま	くま	10.10	10.10
2日	水	みのえ	ね	三碧	八せん始め	廿一	赤口	のぞく	箕	くま	くま	9.23	9.23
1日	火	かのと	る	四緑	映画の日、鉄の記念日、エイズの日、歳末助け合い運動、旧えびす講、旧暦文払い、三隣亡、不成就日、旧月小	廿	大安	たつ	尾	大み	大み	16.28	16.28

一年の締めくくりにあつて、年間を通じて最も日中の短い月である。この月の別名として「師走」の呼称が通例になつてゐるのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、といふ人間味を伴つた語感のせいであらうか。

年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭祀があるが、だいたい納めや供養である。

今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理すること、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがあれば心に誓ふべきであらう。

【祭】歳暮とは元来年の暮のことであるが、日ごろ世話になつてゐる人や親戚などへの贈り物がいつのころから「お歳暮」というならわしになつた。

正月始めは、この月の八日か十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	其宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
15日	火	きのと	し	二黒	年賀郵便特別扱い、東京世田谷ポロ市、不成就日	五	先負	のぞく	觜	神よし	神よし	6.43	6.43
16日	水	ひのえ	とら	三碧	三隣亡	六	佛滅	みつ	参	天おん	天おん	16.29	16.29
17日	木	ひのと	う	四緑	東京浅草観音歳の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭	七	大安	たいら	井	●	●	10.08	10.08
18日	金	つちの	えう	五黄	納めの観音	八	赤口	さだん	鬼	天おん	天おん	16.30	16.30
19日	土	つちの	とみ	六白	上弦〇時一四分、己巳	九	先勝	とる	柳	十し	十し	12.04	12.04
20日	日	かのえ	う	七赤	大つち	十	友引	やぶる	星	ちい	ちい	12.43	12.43
21日	月	かのと	ひ	八白	納めの大師	十一	先負	あやぶ	張	大み	大み	16.31	16.31
22日	火	みのと	る	九紫	冬至一三時四八分、ゆず湯	十二	佛滅	なる	翼	百事吉	百事吉	16.32	16.32
23日	水	みのと	とら	一白	天皇誕生日、不成就日	十三	大安	おさん	軫	神よし	神よし	14.06	14.06
24日	木	きのえ	ぬ	二黒	クリスマス・イブ、納めの地藏	十四	赤口	ひらく	角	●	●	15.44	15.44
25日	金	きのと	る	三碧	望二〇時一分、クリスマス、終い天神、蕪村忌、一粒万倍日	十五	先勝	とづ	亢	ぢう	ぢう	6.01	6.01
26日	土	ひのえ	ね	四緑	一粒万倍日	十六	友引	たつ	氏	●	●	6.57	6.57
27日	日	ひのと	し	五黄	官庁御用納め、納めの不動、小つち、三隣亡	十七	先負	のぞく	房	大み	大み	17.37	17.37
28日	月	つちの	えう	六白		十八	佛滅	みつ	心	き	き	16.35	16.35
29日	火	つちの	とら	七赤		十九	大安	たいら	尾	●	●	18.36	18.36
30日	水	かのえ	た	八白		廿	赤口	さだん	箕	天おん	天おん	20.32	20.32
31日	木	かのと	る	九紫	年越し、大はらい、男鹿なまはげ、除夜の鐘、出羽三山松例祭、不成就日	廿一	先勝	とる	斗	十し	十し	19.34	19.34

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。二十二日前後に二十四節氣の一つ「冬至」がある。この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるので、地方によりそれぞれ行事を持つてゐる。「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られてゐよう。

二十三日は「天皇誕生日」である。

二十五日はキリストの降誕日、その前夜の「クリスマス・イブ」とともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリーを飾つたり、プレゼントをし合つたりする家庭も多い。

新年を迎える飾り物は、三十日までにととのえるが、二十九日は苦飾り、三十日は一夜飾りといつて嫌うので早目の準備を心掛ける。

大晦日(おおみそか)の夜は神棚にお灯明をあげたり、年越しそば(みそかそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したりし、その土地土地によつて独特の習慣を持つてゐたりする。